

『DVDワールド』

宮杉 浩

前回から引き続きDVDのお話です。今回は録画、データの保存等の活用ですっかりお馴染みになった書き込み可能型DVDについてお話ししましょう。

数年前までテレビ番組など映像作品の録画はビデオテープが主体でした。ただビデオテープは品質の劣化やテープの巻き込みなど再生機器でのトラブルも多いものでした。近年書き込み可能型DVDを使用したDVDレコーダーやHDD（ハードディスク・ドライブ）に映像を記録するHDDレコーダーが、その品質向上と低価格化を実現させ、今やビデオテープとビデオテープデッキを過去のものとしてしまうほど一般に普及するようになりました。また、パソコンにおいてもブロードバンドによる動画配信など扱うデータの容量が大きくなったことで、大容量記録メディアである書き込み可能型DVDを搭載した機種が普及するようになってきたのです。

ひとえに書き込み可能型DVDと言いましても、その種類は様々です。まず紹介するのがDVD-Rと呼ばれる規格です。この規格は一度だけ書き込みが可能で前回お話ししたDVD-Videoとの互換性が高い点が最大の特徴です。容量は4.2GB（ギガバイト）で映像なら標準品質で2時間の録画が可能です。低価格で再生機器の互換性も高いメディアとして、一般的に一番普及している書き込み可能型DVDです。続きまして紹介するのは繰り返し記録ができるDVD-RWとDVD-RAMです。DVD-RWはDVD-Rと容量は変わりませんが、1000回以上書き込みが可能です。再生互換機器も多く繰り返し記録が可能なメディアとしてお馴染みとなっています。DVD-RAMは10万回以上書き換えが可能で、品質の保存性能もDVD-Rより高いメディアですが、DVD-Videoとの互換性が無に等しく、DVD再生専用機器では使用できない点が難点といえます。それでも最近のHDD/DVDレコーダーは大抵DVD-RAMが利用できるようになっていますので、長期保存用のメディアとしてさらに需要が見込まれるメディアと言えるでしょう。

他にもDVD+RやDVD+RWといったDVDフォーラムが制定した正式規格外のDVD記録メディアも存在し、各DVDメディアに対応したDVDドライブも多種多様になっています。そのため、自分の持っているパソコンのDVDドライブやHDD/DVDレコーダーがどの規格のDVDメディアに対応しているかを把握しておくことが必要となってきました。そして自分のライフ・スタイルにあったDVDメディアを見つけることがパソコンやHDD/DVDレコーダー選びのポイントにもなるわけです。

さて、次回「DVDワールド」の最終回は次世代DVDとDVDメディアの今後についてお話ししたいと思います。

みやすぎ ひろし（係・管理運営課）